

産学官シンポジウム

グローバル競争に勝ち残る 中小企業のモノづくり

主催
日刊工業新聞社
日本産業人クラブ連合会

共催
東京工業団体連合会
国民工業振興会

基調講演

金属技研社長 長谷川 数彦氏

混沌の時代を切り開く 海外営業強化と航空分野への展開に活路

日刊工業新聞社と日本産業人クラブ連合会は、東京工業団体連合会、国民工業振興会との共催により、11月26日に東京・飯田橋のホテルグランドパレスで産学官シンポジウムを開いた。「グローバル競争に勝ち残る中小企業のモノづくり」のテーマに沿って、福島新

浪、長野、東京、千葉の各産業人クラブ連合会は、東京工業団体連合会、国民工業振興会との共催により、11月26日に東京・飯田橋のホテルグランドパレスで産学官シンポジウムを開いた。「グローバル競争に勝ち残る中小企業のモノづくり」のテーマに沿って、福島新

浪、長野、東京、千葉の各産業人クラブ連合会は、東京工業団体連合会、国民工業振興会との共催により、11月26日に東京・飯田橋のホテルグランドパレスで産学官シンポジウムを開いた。「グローバル競争に勝ち残る中小企業のモノづくり」のテーマに沿って、福島新

熱処理で創業

当社は1960年に金属の熱処理で創業しました。創業間もなく真空炉を主力設備に据え、航空機関連会社を中心に営業

HIPを柱に

当社の受託事業の大きな柱はHIP処理。半導体・液晶の電子材料、発電用ガスタービンのプレ

蘇州に進出

中国進出については10年前から調査していましたが、なかなか判断できなかった状態でした。決断の引き金となったのは航空分野からの引き合いです。経済発展に伴い飛行場などインフラ整備が進み、国民の輸送手段が鉄道から自動車、飛行機へと移行しています。民間旅客機の保有数は98年からの10年間で2倍以上に増え、2027年には約4倍の需要が見込まれています。中国ではリージョナルジェット機「ARJ」や中型旅客機「C919」など、航空分野での新規参入が相次いでいます。国産化を目指しており、部品から現地でつくりたい、との進出要請が当社にありました。これにに応じるとともに、日本から移管した仕事を現地で受け止めようと考えています。

P&Wから受託

最後に航空分野について説明します。世界の航空機産業市場は今後20年で2倍以上伸び、アジアが最大のシェアを占めることが予測されています。市場拡大に伴い、新市場として「MRO」産業が注目を浴びています。整備・修理・分解検査組み立て周辺のことです。当社はこの中の修理事業を始めた。製造分野は製品が売れた時のみ売り上げが発生しますが、修理は繰り返し需要が発生するため、利益を安定的に確保できると言われています。

苦勞の成果大

最後に私の経営観をお話しします。消極的にならないように心掛けています。積極的に展開しなければプラスにならない、つまりマイナスにしなければなりません。また、苦勞するほど成果が大きいはずだと信じ、常に言い聞かせています。

航空機の本場

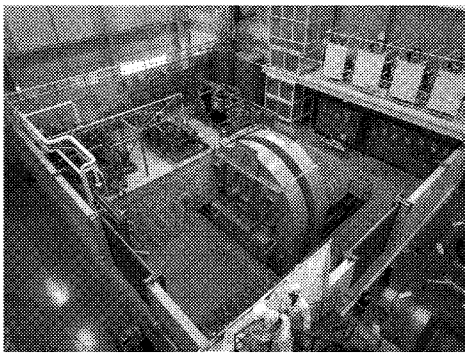
当社は従来、熱処理という特殊工程のプロセスサービスを国内メーカーに提供してきましたが、限られた枠での活動なので大きな飛躍はできないと考えていました。今回の契約を機に、航空ビジネスの本場に踏み込んで、上流の製造も手がけていきたいと考えています。

苦勞の成果大

最後に私の経営観をお話しします。消極的にならないように心掛けています。積極的に展開しなければプラスにならない、つまりマイナスにしなければなりません。また、苦勞するほど成果が大きいはずだと信じ、常に言い聞かせています。



HIP（熱間静水圧プレス）とは
金属粉末の焼結や、溶接が困難な金属同士の接合、それに鋳造品の内部欠陥除去など、モノづくりの基礎をなす重要なテクノロジーです。金属技研はこのHIP装置を1984年より導入し、2010年は世界最大級HIP装置「Giga-HIP®」を稼働させて、さらなる金属の可能性を切り拓きました。



Giga-HIP®

金属技研は、金属熱処理、接合、HIP処理など様々な特殊技術をモノづくりの基幹とし、機械加工技術を融合することによって、上流から下流まで一貫した受託加工を行っており、液晶・半導体分野からエネルギー分野、さらには航空・宇宙分野まで幅広く手掛けております。2012年に新設した成田工場を拠点とし、Pratt & Whitney社との契約のもと、航空機用エンジン部品の修理事業を始めます。

これからも金属技研はHIPテクノロジーをはじめとする高い技術力をもって、社会・人・くらしへの貢献を通じて、皆様に愛され、信頼される企業を目指し、たゆまぬ努力を続けてまいります。

the metal solution®

HIPテクノロジーで世界をリードする